令和7年度　高山市立朝日小学校　学校経営の重点及び自己評価　　校長　切手　光恵

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	育てたい資質・能力	基本施策との関わり		本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点（手立てとしてどうか、または達成度はどうか）	評価A～D	分析と改善点
方針・未来社会を創造する資質・能力を身に付け、学び続ける子の育成 重点・自分らしく一歩踏み出し乗り越え挑戦し続ける子 プレゼン教育・キャリア教育・郷土教育・ICT教育	①豊かな心、健やかな体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進 ②こどもの自己実現を支える教育の推進 ③学校、地域、関係団体等との協働による郷土教育の推進 ④DXを取り入れた教育の推進 ⑤安全・安心で快適な学校環境の整備	自立（自分で）・共生（仲間とともに）	ふるさとの中で、自分で判断して行動し、人と関わり共に生き抜く力	自立（自分で）	①④	主体的に学びを深める子の育成	解決方法を自分で選択し、自分の力だけで挑戦する力を身に付けさせる。 自分の力に合わせた問題に挑戦し、ひたむきに努力する力を養う。	A	○児童アンケートより 授業が「できた・わかった」と感じている：91％ ※学習課題に対して自分の力で挑戦し、達成感を感じる授業を行えている。
					①②	何事も最後まであきらめない子の育成	なりたい自分の姿を具体的に考え、振り返りを通して、次の目標に向かって努力する子の育成。 なりたい自分の目標に向かって努力する子93％→100％を目指す。	A	「なりたい自分」の目標に向かって努力している。：98％ ※児童が、なりたい自分に向けて努力している。
							朝高子どもしとねる会を中心として、郷土について学ぶ。 地域が好きな児童の割合100％を目指す。	A	「郷土学習は地域の良さを知ったり、自分の生き方について考えたりすることに役立っている」：98％ ※地域講師（ふるさと先生）の力を借り、充実したふるさと教育が行えている。
				共生（仲間とともに）	①	共に学びを深め合う子の育成	聞き方、話し方の指導を行い、仲間の考えと関わらせながら発言できる力を育てる。 仲間と考えを練り合い、より良い考えを導く話し合い活動を行う。	A	○児童アンケートより 「授業中に「わからない」「できない」と気軽に先生や仲間に言える。」：91％ 「聞く人に分かりやすく話そうとしている。」：93％ ※授業中の対話を通して、互いに考えを高め合うことができている。
					②	一人一人を大切にし絆を深める子の育成	お互いの違いを認め合い、一人一人に合った関わりができる子を育成する。 全校の中で自分の役割を果たしきることができる子を育成する。	A	「仲間のことを思いやったり、気持ちを考えて行動したりしている。」：93％ ※相手を思いやって接することができている。
							縦割り掃除、全校朝の会、全校遊び、全校給食を実施していく中で、異学年との交流の良さを感じる児童の割合を100％にする。	B	「異学年の子と仲良く遊んだり、活動する」：89％ △異学年での遊びや活動の場面を増やし、異学年との交流の良さを感じさせられるようにする。
				義務教育学校に向けての連携	①③	9年間を貫く郷土教育の充実	朝日。高根の自然や特色について学び、郷土の未来を考える活動を仕組む。 地域が好きな児童の割合100％を継続する。	A	「（1～3年）ふるさと（朝日、高根）が好き。（4～6年）ふるさとのために役に立ちたい。：100％ ※ふるさとを大切にしようとする気持ちがもてている。
					③	中学校との連携	校区連携の3つの柱（学習・道徳、生徒指導・特別活動、教育相談・特別支援教育）を踏まえ、小中連携をさらに深める。	A	※中学校と連携し、なりたい自分の小中交流や、合同レクなど、児童生徒の交流が充実した。
					③	地域との連携	地域との連携をより充実させるとともに、積極的に情報発信を行い、義務教育学校開校に向けて地域と共にある学校を目指す。	A	○保護者アンケートより 「学校は、地域や家庭と連携して、ともに子どもたちを育てようと努力しているか。」：91％ ※義務教育学校に向けて、地域との連携や情報発信ができた。

学校運営協議会における主な評価内容	○学校アンケート（保護者、児童）の結果から、教育目標の達成に向けて概ね好評価をいただいた。 ○「義務教育学校に向けて、少人数の良さを生かしたり、縦のつながりをさらに強めていける教育活動を行ったりすると良い。」と、意見をいただいた。